

祭 事 暦

4月1日・20日 午前8時30分  
 月 次 祭  
 4月4日(土)・5日(日)  
 年 参 講 大 祭  
 (5日 宮山参拜日)  
 4月29日 午前8時30分  
 略 和 祭



# 相 模

発行所  
 寒川神社社務所

〒253-0195  
 神奈川県  
 高座郡寒川町宮山3916  
 電話 代表0467(75)0004

編集者 前島 正  
 責任者  
 印刷所 樹さんこうどう




## 鎮守の森

桜花咲き競う卯月、寒川神社の神苑及び境内には十種類を超える桜の木が植栽されていますが、ご参拝者は花咲く今も心を和まれていることと思います。ご参拝者は花咲く今も北上にとまない、人々が輪になって観桜を喜びあう光景が満開を迎える全国其処此処の桜の名所で織りなされるでしょう。桜をはじめ綺麗に咲き誇る花々を見るとき人は微笑を浮かべます。「咲」は「笑」の古字で、「咲つ」とも読みます。今月は桜の時に桜が咲い、そして咲く桜を観て人も笑う時期なんです。一年を通せば甚だ短い開花期間であつても桜を人に響える歌などをはじめ、桜に因んだ歌が数多くあり桜は常に身近に感じられているものだと思ひます。今年は戦後七十年の節目の年であります。ここにきて漸く現憲法改正への取り組みがはじまりました。自主憲法制定の流れは現政権の今をしてしか進められない機会が巡ってきているのではないかと感じます。私たちはしっかりと事の行く末を見守り日本国の揺ぎ無い道筋を子孫に残すべく、積極的に関わっていくべきではないでしょうか。「和を以て貴しと為す」日本人では知らない人は居ないと思われる聖徳太子の「十七条の憲法」。仏教が伝来し既存の勢力との争いを危惧した聖徳太子が治めるべき理念をあらわしたものと解釈がされていますが、この理念を世界に誇れる理念として憲法の前文本文に反映してはどうかとの提案をする方もおられます。なぜ世界に誇れるのか、それは日本が連綿と紡いできた磐石の歴史がある中で、唯一、七十年前の打ちひしがれた状況さえも乗り越えて、「和」をもって国を守り抜いてきた連続性があるからであるといえるかも知れませんが、日本民族にはこの「和」をもって寛容性があるといわれております。その寛容性からは多様性を生み、その多様性の中には、ともしれば相反する事柄も当然あるでしょうが、日本人には相反する事柄も均衡と調和で乗りこえる力があるようです。古来より日本は「和」をもって国体を維持してきましたが、これを自主憲法に盛り込んで高らかに諸国に発信すれば、一方面的寛容性が意識され動かそうとする世界の様々な対立の場面で寛容性が意識され均衡と調和をもって、争い事もなくなる傾向になるかも知れないということになるのでしょうか。今月は桜花の下で、皆で和になって世界に誇れる日本の新しい開花を大いに咲かせてみて、いきましょ。

(川見順春)



# 宮山役員改選奉告祭齋行

三月二十一日、寒川町宮山地区の役員交代を御神前に奉告する、宮山役員改選奉告祭が執行されました。

当日は、責任役員・宮山総代、自治会・生産組合・衛生係・消防分団の新旧役員の方々が参列され、在任中の報恩感謝と、これから始まる役務の無事遂行を祈願致しました。

旧役員の方々には、町内各地区と神社との連携と維持

持運営に御尽力頂き、厚く御礼申し上げます。

また直会の席上では、新旧自治会長より「震災・洪水、非常時の体勢の素案は出来た。精査し活用頂きたい」「役員には旧知の仲間が多い。意思疎通もし易く一致団結し、神社の繁栄と地区の安全に邁進したい」との力強いお言葉を頂きました。

新役員の方々には、大神

様の御加護の下、各役務に於いて御活躍されますこと祈念申し上げます。



## 平成二十七年度 宮山総代



本年度の宮山総代をご奉仕頂く方々をご紹介します。一年間よろしくお願い致します。

- |       |       |        |       |
|-------|-------|--------|-------|
| 総代長   | 金子 武  | 中里(上)  | 金子 健治 |
| 副総代長  | 谷澤 正勝 | 中里(下)  | 室屋 辰美 |
| 総代    |       | 中里(河原) | 鈴木 茂治 |
| 根岸(上) | 菊田 光隼 | 中里(サザ) | 三枝 利行 |
| 根岸(中) | 湯上 義人 | 馬場     | 原 宏治  |
| 根岸(下) | 宮川 里司 | 雷      | 金子 吉秋 |
| オリブの丘 | 徳永 博克 | 下      | 高橋 正幸 |
| 旭(東)  | 古谷 進一 | 南      | 杉本 孝幸 |
| 旭(西)  | 杉山 信一 |        | (敬称略) |
| 上合    | 金子 昌裕 |        |       |



# 第三十九回伊勢参宮旅行実施

三月八日から十一日にかけて、高座氏子総代会主催による恒例の参宮旅行が実施されました。

初日は、神宮美術館にて神宮に奉納された美術品工芸品を見学した後、外宮を参拝しました。

二日目は、朝まだ静寂なうちに内宮を訪れ、より心のあらたまる凜とした雰囲気の中で御垣内参拝をし午後には岐阜市に鎮座する



明治村にて



美濃国の三之宮である伊奈波神社を正式参拝しました。

最終日には愛知県犬山市にある明治村を見学し、各地より移築復元された明治期の数多くの重要文化財に触れ文明開化の時代の雰囲気を感じました。古から現代への文化の変遷を体感することが出来、大変意義深い旅行となりました。



今月の催し

奉納演芸大会

四月五日(日)

正午から夕刻まで



宮山総代並びに氏子の皆様方による、奉納演芸大会が開催されます。皆様多数のご来社をお待ち致しております。
\*第一部 歌謡ショー
\*第二部 舞踊ショー
場所 寒川神社境内 特設会場

(雨天の場合は 寒川神社少年館)

第四十五回 学齢児図画展

四月一日(水)〜十日(金)

今春、小学校へ入学する子供達の作品を回廊に展示し、健やかな成長を祈り開催致します。

(協力)

寒川さくら幼稚園

倉見幼稚園

一之宮相和幼稚園



五月五日

国府祭御神幸時間のお知らせ

この祭典は「このまち」とも呼ばれ、大磯町国府本郷の神揃山に相模国一之宮寒川神社・二之宮川勾神社・三之宮比々多神社・四之宮前鳥神社・平塚八幡宮の神々が神輿にて参集し、古式「座問答」が行われます。その後大矢場にて神対面の儀・国司奉幣の儀が行われます。

神幸時間表

五月五日(火)

- 七〇〇 諸員参集
- 七二〇 遷霊祭
- 七五〇 発輿祭
- 八〇〇 社頭発輿
- 九〇〇 平塚通過
- 一〇三〇 神揃山祭
- 一一〇〇 古式「座問答」
- 一一五〇 神揃山発輿祭
- 一二〇〇 神揃山発輿
- 一四〇〇 神揃山発輿
- 一五〇〇 大矢場着御
- 一五四〇 神対面の儀
- 一五五〇 国司奉幣の儀
- 一六〇〇 大矢場発輿
- 一九三〇 社頭還幸

座問答



▲ 神対面の儀



▲ 国司奉幣の儀

社頭還幸時間は道路状況により大幅に前後する事もあります。

◆ 青少年活動だより



# 寒川神社少年館

## 直心庵茶道稽古

茶道講座では、毎週月曜日に茶道の稽古を行っておりますが、今回初めて神獄山神苑内の直心庵にて稽古が行われました。



卒館を迎える六年生を対象に、これまでの集大成として「正式な場所」で、「正式な作法」ということで去る三月二日、八名の館生が先生より細やかな手解きを受けました。館生達は初めて入る茶室というものに感嘆しながら、緊張の中の一つ作法を確認して点てておりました。

## 春の社会見学を実施

三月八日、社会見学を横浜カッパヌードルミュージアムで実施致しました。

到着後、チキンラーメンとマイカッパヌードル作りの二班に分かれて交互に体験し、チキンラーメンでは小麦粉をこねて伸ばし、麺にして味付けするまでを行い、油で揚げて乾燥してもらい完成。また、カッパヌードルでは、自分でデザインしたカップにスープと具材を選び自分好みのヌードルを完成させました。

今や世界中で食され、簡単に作れる即席麺の歴史とその作られ方を学んだことで、食に対する考え方を改めさせられました。



## 第三十八回卒館式挙行



三月十五日、卒館式が執り行われました。本年十八名の館生が卒館を迎え、式典に先立ち神社本殿にて奉告祭を行い、これまでの活動の御礼とこれからも見守って頂けるよう祝詞が奏上されました。

式典では、大勢の在館生と講師の先生方が見守る中館長先生より一人一人に卒業証書と記念品が渡されました。

様々な思い出が詰まった少年館、去り難い気持ちを残しながらも、皆晴れ晴れとして巣立っていきました。



# BS寒川第二団

— スキー訓練実施 —

三月十四から十五日にかけ二年ぶりとなるスキー訓練を団委員・リーダー・スカウト総勢三十九名にて霧が峰スキー場に於いて行いました。

前日には降雪もあり、この時期としては珍しくパウダースノーの上で滑れるという絶好のコンディションとなり、スカウトたちは期待に胸を膨らませ、眩しいばかりに光り輝くゲレンデへと飛び出しました。



初心者の方スカウトは、履き慣れないスキー板を上手く操れず、滑る雪の上で悪戦苦闘、何度も転倒し、嫌になりあきらめてしまわないか心配しましたが、最後には全員リフトに乗り、上手に滑れる様になりました。上級者はスノーボードにも挑戦。中には初めての経験なのに無謀にもハーフパイプに挑戦、勇猛果敢に攻め見事回転技を披露するリーダーもいて、冒険のスペシャリストとして羨望の眼差しを集めておりました。

# 禰宜退任のご挨拶

## 渋谷 幹 寛



此の度一身上の都合により三月末日をもちまして退職させて頂きました。奉職中、寒川大明神様の御守護は基より、三代の宮司様を始め大勢の職員の皆様方氏子崇敬者の皆さま方に公私共々御支援御教導賜り衷心より御礼申し上げる処でございます。

顧みますれば昭和六十一年七月一日付にて社報「相模」一五四号に私が寒川神社権禰宜、兼務社官谷神社禰宜として採用の通知が記され、それから本号四九九号が退職の掲載記事になり

ます。実に三四五部刊行される間、丸二十九年近く大過なく奉職出来ました事私の拙い原稿も何回と掲載させて頂いた頂きました事等々感慨一人に思います。

又、奉職期間中の思い出を二三申し上げれば、まずは幸にも御殿で祈禱奉仕が長かった事もあります。儀式課（祭儀課）事務室の神棚に先々代の瀧本宮司様の作と伝わる

『葦し鉢』

中取持ちの言の葉は

神にぞさゝぐ

我が命なりけれ』



▶ 故瀧本名譽宮司作の短歌

の短歌が額に入れて置いてあります。

口幅つたいようですがこれは奉職期間中、毎日頭に浮かび囁み締めていた歌でもあります。今後この教えを信念にして生きて参る所存です。

更には本務社、兼務社の遷座祭を始め数多の恒例臨時祭典奉仕の緊張感、用度課業務担当時分の事、また、参集殿殿長の頃は神前挙式の啓蒙に夢中になり案内した事等が今更のように懐かしく甦って参ります

八方除の御神徳を戴きに祈禱参拝者が他の神社では考えられない程の件数を御奉仕申し上げる寒川神社の大前で、職員の方々と共に宮勤めさせて頂きました事、この上ない喜びに存じて居ります。

今後共々寒川神社の御隆昌と皆さま方の御多幸と御健康を祈念致しまして退職の御挨拶とさせていただきます。

有難うございました。

### ボーイスカウト寒川第2団 もちつき・バザー大会開催

<とき> 5月3日(日) 9時~14時  
雨天順延 (翌日)  
<ところ> 寒川神社 馬場



スカウト募集中

あったか! つきたて!  
あんこ・きなこ・いそべ・大福・  
よもぎ餅販売致します。

~つき手飛び入り大歓迎~  
スカウト体験入隊コーナー開設

※同日10時~12時

### 相模國式内社の会 第三十七回式内社巡拝会実施

相模國式内社の会では三月二十四日、三十七回目となる巡拝会を開催しました。今回は、甲府市に鎮座し甲斐を代表する名将武田信玄公をお祀りする武田神社を正式参拝しました。

内藤禰宜様より「武田神社は大正八年創建と歴史は浅いが、地元の方々の信玄公の敬慕の念は篤く、偉業が現代にまで浸透しておりそれを継続するのが教化である」と説明頂きました。その後は伝統工芸である

印傳工房を見聞の後、特産のワインを試飲するなど有意義な研修となりました。





人 事

◆昇進

△神 社▽

主 典 松橋 嶺行

香田 俊介

寒川神社権禰宜に任ずる

平成二十七年四月一日

神 社 本 庁

◆異動

△兼務社▽

権禰宜 丹下 英紀

八幡大神禰宜兼職を免ずる

平成二十七年三月三十一日

権禰宜 野村 尚広

兼ねて八幡大神禰宜に任ずる

平成二十七年四月一日

神 社 本 庁

◆出 向

△神 社▽

権禰宜 高畠 弘

神奈川県神社庁出向を命ずる

平成二十七年四月一日

◆新採用

△神 社▽

加藤 芳朗

植松 敏光

出仕を命ずる

前田里緒奈

岡本 光代

齋藤 唯

巫女を命ずる

高橋 寿枝

録事を命ずる

平成二十七年四月一日

△参集殿▽

伊藤みどり

横川 結

参集殿勤務を命ずる

平成二十七年四月一日

△寒川病院▽

伊東 功

山口 俊夫

北村香津美

菊池真喜子

寒川病院勤務を命ずる

平成二十七年四月一日

△神恵苑▽

廣田 実香

介護職員 鈴木 由佳

玉岡 信

藤木 美希

神恵苑勤務を命ずる

平成二十七年四月一日

◆退職

△神 社▽

禰宜 渋谷 幹寛

禰宜に依り職を免ずる

平成二十七年三月三十一日

神 社 本 庁

△参集殿▽

菅野絵美子

願いに依り職を免ずる

平成二十七年三月三十一日

△寒川病院▽

武村 文夫

高野奈津子

願いに依り職を免ずる

平成二十七年三月三十一日

今月の木札

◀卯 生



桜の花が咲くのは、田の神が里に降りられたのを伝える為ともされ、豊作を祈り皆で祝ったのが花見の始めと言われる。日本独自のこの風習、野へ山へ桜を探しに出掛けよう。

月次祭にご参列された方などにお頒けする木札です

相模国一之宮寒川神社例祭

第六十九回 奉灯句会

一、兼題 「螢」 二句(会費千円を添えて投句のこと)

宛先 五月十六日必着

(会費の添えてない場合は受理しません)

宛先 〒二五三・〇一〇六

寒川町宮山一七六・五 飛石靖利

一、大会日時 九月六日(日) 午前十時受付開始

場所 寒川神社参集殿四階

(相模線宮山駅下車徒歩五分)

席題 当日発表(投句〆切十一時)

大会当日の費用は不要

一、表彰 菊花御紋賞状の一之宮賞以下五十位まで賞品贈呈

一、選者 客選 各地区先生 謝選 主催者代表

お知り合いへ参加御勧誘をお願いいたします。

主催 寒川俳壇

兼務社だより

八幡大神 神職交代のお知らせ

この度、四月一日付にて八幡大神(寒川町一之宮鎮座)の禰宜に当神社権禰宜野村尚広が就任いたしました。

就任のご挨拶 八幡大神禰宜 野村 尚広



四月一日をもちまして兼ねて八幡大神禰宜を拝命致しました。素より凡庸の身で未熟者でございますが、微力ながらも誠心誠意務めさせて頂く所存です。何卒、ご指導ご鞭撻賜ります様宜しくお願い申し上げます。

455

健康手帳

# 「痔」の話



宗教法人 寒川神社 寒川病院  
消化器科医長 原 正

正

一般に「痔」というと何となく「恥ずかしい病気」という意識があると思いますが、最近では成人の三人中ひとりには痔がある(痔主)と言われているくらい多い疾患です。

症状は肛門の痛み・腫れ・出血がほとんどです。一口に「痔」と言ってもその病態は大きく分けて三種類あります。最も多いのがいわゆる「いぼ痔」です。これには「内痔核」と「外痔核」が多くを占め、その原因は肛門の細い静脈のつづ滞(血液の流れが悪くなること)やこの静脈周囲の組織が弛んでしまうことなどが考えられています。便秘の時に力んでしまうとこの静脈が肛門の外に出て来てしまいイボのようになります。重症の場合は出っ張ったまま戻らず、さらに腫れて痛みが悪化することもあります。

が、まずは排便のコントロールと外用薬(肛門に塗る軟膏)です。それでも症状が改善しないときには手術を考慮します。手術には「痔を切り取る方法」、「弛んだ組織を縫い縮めて痔を引つ張り上げる方法」、最近では痛みが少ないと言われる「硬化療法」などがあります。「外痔核」は肛門の縁にできる一種の血豆のようなものです。内痔核と比べ比較的急に腫れて、痛くなる場合があります。治療はこれでもまず薬ですが、痛みが強いときや痔そのものが大きいときは切開し血豆をつぶすと数日で症状は治まってきます。次は「切れ痔」です。正式には「裂肛」と言います。裂肛は固い便が出るときに肛門が切れてしまうことで生じることが多いようです。いけないのは痛いから排便を我慢する。そうすると便がさらに固くなる。しかし

いつかは排便するときにありこの時にさらに切れて痛くなる。このような負のサイクルになると裂肛がひどくなり最後には肛門が狭くなってしまう。治療は初期であれば排便のコントロールと外用薬です。いよいよ肛門が狭くなり排便に支障を来すようであれば手術が必要となります。最後は「痔ろう」です。これは肛門周囲に膿が溜まる「肛門周囲膿瘍」という状態から排膿(膿が出て)し、その後しばらくしてもジクジクした状態が続く場合です。肛門周囲膿瘍は通常肛門の痛みや発熱を伴って病院を訪れる方が多いです。麻酔後に切開・排膿すると症状は速やかに軽減します。多くの方はそのまま治りますが、時々前述のようにジクジクした状態が続く「痔ろう」となります。治療は手術が必要ですが簡単なものからかなり複雑なものまであります。四月から「痔」の治療の経験豊富な先生が当院に赴任される予定です。お尻(肛門)のことでお困りの方は受診をお考え下さい。



## 社報「相模」は

五〇一(平成二十七年七月)号より  
季刊(年四回)となります

小誌「相模」をご愛読いただき誠に有難うございます。「相模」はお陰さまにて本年五月を以って五〇〇号を迎えます。

続く、五〇一(平成二十七年七月)号からは、年四回発行(一月・四月・七月・十月)の季刊と変更させていただきます。

体裁も、A四版・十二ページとなり、画像を大きくする等、見易く親しみやすい編集を心掛けて参る所存ですので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

現行の社報は五月号まで発行いたします。リニューアルされた社報は七月号が最初の発行となり六月は休刊となりますので、ご承知置き下さい。

## 医療講演会のご案内

とき 4月30日(木)  
午後3時~4時

ところ 寒川神社 参集殿

内容 「手と指の『ケガ』のすべて」  
~つき指から切斷・挫滅(ざめつ)まで~

講師 整形外科 医長  
城倉 雅次

入場無料 申込不要  
ご来場をお待ちしております。

0467-75-6680  
寒川病院

# 冬川俳壇

飯事まじごとの後そのままに春の暮  
ボケットに言葉いつぱい春つらら  
満員のトロツコ電車や山笑う  
一言の多きを悔いて春寒し  
朽ち掛けて一枝咲かす臥竜梅  
飲んで寝て食つて又飲む春の雨  
バスガイド指差す山の笑いをり  
口漱ぐ日毎に水の温みけり  
唇月の東にありて剪定す  
家事といふ限りなきもの春寒し  
啓蟄やぼこぼこ穴を掘る工事  
乗るはずのバスを見送り笑ふ山  
春蘭のあえかに咲きし山傍やまのほとり  
春の月先客のあて露天風呂  
外に出てちぎりたくなる春の雲  
剪定や気に入る枝のよく揃い  
山笑ふ印鑑を押す申告書  
實朝忌小町通りの賑ぎやかに  
猫しきり顔を洗つや春つらら  
嫁ぐ日は微笑み返すお雛様



飛石 槿花  
竹村真砂美  
根岸 君子  
吉岡 徜徉  
天沼 子平  
芹澤 徳光  
松村 信篤  
倉谷 節子  
四ツ車梢月  
松本美智子  
菅沼 保幸  
金子 つち  
浦野 房子  
岩田美代子  
露木てる子  
皆川志んこ  
菅沼つめの  
伊藤 公一  
宮入 つる  
原野 楽天

## 四月 手水舎奉揚

明治天皇御製

ひらけゆく道に出でて心せよ  
つまづくことのある世なりけり

# 相模詠草

朝日浴びきらりと光る霜柱一人さくさく踏む心地よさ  
昨日雨今日は朝からよく晴れて如月六日春の足音  
出初式立ち登る籠か放水の広がるしぶき 防災の虹  
あたたかき陽射しを友に日曜の市営のバスにひとり揺らるる  
大雪の朝に生れし我のこと雪ふるたびに母は語りぬ  
ローズマリーかわいい小花の濃紫確かめたくて近づいてみる  
霜柱押し分け首出す芍薬の赤き蒼のその愛しさよ  
外は雪何処にも行けず久さびさに部屋こもりする私の一日  
三百年余を経し樞の三条が屋敷に残る古里を恋う  
猫の九入院の日を待つ吾に励ますようにすり寄りて鳴く  
みことなる冬枯れの木々風の中芽ぶきの春をじつと待ちおり  
窓越しの冬陽楽しむシクラメン背すじを伸ばし気持ちよさそう  
窓たたたく冷たい雨の夕べ晴れ茜の雲の淡くたなびく  
カーテンに朝の光のまぶしきに春の立ちしをしみじみ思つ  
何事の予兆なるべし赤き満月鎮守の森にぬつと顔出す



亀山 文子  
安藤 慧  
川島恵美子  
平澤まさえ  
稲垣 武子  
吉田 幸子  
宮治友美枝  
徳江 道子  
宇田川時子  
土屋トミ子  
浜田 寿子  
山口 幸子  
山根喜美代  
岡元 芳子  
杉本 照世

## 表紙写真説明

春爛漫、桜花満開の参道を  
疾走する観桜駅伝の選手達

## 編集後記

大地に花咲くこの季節、人も  
また花咲き輝く時期である

この後、実が成り、種となり  
翌春にはまた花を咲かせる  
春は更なる成長を促す大きな  
分岐点となる大切な時である